

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/01/07 ~2020/02/05)

1. 勉学の状況

年明け早々に日本を出発してから、一ヶ月が経ちました。私は現在、ヨエンスーの東フィンランド大学で、フィンランドの Special Education を学ぶために留学しています。1月7日から大学がスタートしましたが、実際に講義が始まったのは1月の後半からだったので、今月はフィンランドの生活に慣れる期間としてゆっくり生活していました。

講義についてですが、私は、教育関連の講義を中心に履修しています。その中で、すでに始まっている3つの講義を今回は紹介したいと思います。

・ Approach to Special Education in Finland

この講義では、フィンランドの Special Education、日本でいう特別支援教育について学びます。初回の授業ではフィンランドの教育の概要を学び、そこで教育における“equality”と“equity”についてグループで話し合う時間が設けられました。グループには日本、韓国、中国、ドイツからの留学生がいて、それぞれの国の教育について話していましたが、ある学生の「equityは理想的だけど財政や教師の不足から考えて実現は難しい」という発言に全員が頷いていたのがとても興味深かったです。私は、日本の教育を批判的に考え、心のどこかで海外の教育に期待している部分がありましたが、抱える問題の本質的な部分はどの国も変わらないのかもしれないと感じました。

また教授が、インクルーシブな環境を作るためになされている工夫について、実際に教室の写真を紹介しながら説明しているときに、ある学生が「フィンランドの全ての学校が、写真のような環境なのか」という質問をしました。それに対して教授が「新しい学校はこのような環境を実現できているが、全ての学校ではない」と答えているのを聞いて、フィンランドの教育の課題に目を向けてみるのも大切であると思いました。2月には、小学校の訪問をする予定なので楽しみです。

・ Education Policy and Education System

この講義は、教授によるレクチャーがなく、ほとんどが自主学習です。具体的には、3~4人でグループを組み、1人1冊本を選んで、本の内容についてレポートを書きます。その後、グループで本の内容についてディスカッションをし、全員のレポートとディスカッションをまとめたものを最終レポートとして提出します。ディスカッションが非常に不安ですが、頑張りたいと思います。

・ Survival Finnish

この講義では、基本的なフィンランド語を学びます。フィンランド語は、主語によって動詞の語尾を変化させたり、数字も1~9に”toista(11~19)”, ”kymmentä(10)”, ”sata(100)”などを

つけて読むので、パターンを覚えてしまえばある程度使うことができます。

以上のように、こちらでの講義は、レクチャー型、自主学習型、web 講義型など様々な形があり、それぞれの学生にあった学習ができる環境が整えられているように感じました。

2. 生活の状況

・気候

今年の冬は例年に比べ暖かいようです。フィンランドに到着する前は、寒さと暗さで生きていくか心配していましたが、実際は、寒い日でも-15℃前後で、暖かい日には1℃を超えることもあります。数字だけ見ると寒いように思えますが、ダウンコートを着れば、中はセーター1枚で大丈夫な日もあり、拍子抜けしています。日照時間は、8:30~16:00 と、日本に比べると短いです。晴れる日も少ないですが、晴れると街の景色が美しくとても気分が上がります。また、1ヶ月間生活しているだけでも、日が段々と伸びているのが感じられます。

・食

食事は、朝晩は家で自炊をし、お昼は学食を食べています。学食は 1.98€で野菜やパンを好きなだけ盛り付けられます。自炊の食材は、家の近くにあるスーパーで買っています。野菜や肉の値段は日本とさほど変わりませんが、サラダなどの加工された食品は非常に高いです。また、醤油やみりんなど日本の調味料も売っていますが、こちらも高いので、日本から持って来ればよかったと後悔しました。

・その他

1 月は、新入生に向けたイベントが盛りだくさんでした。歓迎パーティー、サウナ、スキー、International Dinner など、多くの留学生と交流する機会がありました。International Dinner は、自国の料理を持ち寄るイベントで、私は日本人の友人と一緒に唐揚げと手巻き寿司を作りましたが、思った以上に人気があり、投票では1位でした。そして、フィンランドといえばサウナです。フィンランドのサウナでは、水着をきて男女関係なくサウナに入ります。サウナ室は小さいので、横の人との距離が近く、はじめは緊張しましたが、この距離の近さが現地の方と会話するきっかけとなり、非常に良い経験でした。

最後に、私は、春学期から留学を始めるのが少し不安でした。なぜなら今まで同じ時期に留学をはじめた先輩がいなかったからです。しかし、実際に留学してみると、日本人の留学生やチューターなど、たくさんの方に助けをもらい、何不自由なく留学生活をスタートする事ができ、本当に自分は恵まれていると感じました。留学前に相談にのってくれた支援室の方や友人、指導教員としてアドバイスをくださった先生、家族、全ての方に感謝します。ありがとうございます。

→ 晴れた日のヨエンスー



←学食

(取り放題のパンが最高に美味しいです)

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/02/06 ～2020/5/31)

1. 初めに

2020年3月中旬頃に世界的に大流行したコロナウィルスの影響で、半年間の予定だった留学を中断せざるを得ず、3月19日に日本へ帰国しました。帰国してすぐはやり切れない気持ちでいましたが、今ではコロナ禍のフィンランドの様子や他国の留学生の対応など、2020年の3月でなければ体験出来ない経験を出来たと思っています。

1. 勉学の状況

ここからは、受講中だった講義がコロナ前とコロナ後でどのように変わったかを少しご紹介したいと思います。全体的に、対面からオンラインへの移行はとても早く行われたと思います。大学が閉鎖される事が決まってから、生徒たちが自宅で学習が続けられるような処置がすぐに行われました。また、帰国する留学生も自国で講義が受けられるように、講義の録画がmoodleにアップされたり、評価方法が変更されたりしました。

・ Approach to Special Education in Finland

帰国前

この講義は、フィンランドの Special Education、日本でいう特別支援教育について学びました。この講義では、グループに分かれて、それぞれが決めた学校へ訪問し、プレゼンテーションをすることが最終的な課題でした。私の班は、**Karhunmäen koulu** という小学校に訪問しました。校舎は二階建てでしたが、多くの機能は一階にあり、非常に明るく開放的な校舎でした。また、机や椅子がカラフルだったり、授業中に寝転がって受けられるようにクッションが置かれていたり、子供たちが楽しんで学べる工夫がされていました。特に印象的だったのは、教室の後ろに、右下の写真のようなパーテーションが置いてあり、授業中でも一人で集中できるスペースが設けられていた事です。様々な学びのニーズに合わせて学習空間が形成されている事はとても興味深いと感じました。また、算数の授業の様子も観察させてもらいました。一つの授業における児童の数は10人前後ととても少なく、2人の先生で授業を展開していたため、児童一人一人への指導が行き届きやすい印象を受けました。さらに教室



の外では、二人の児童が個別の指導を受けていました。このように、一人一人の子どもに合わせた学習を提供しようとするフィンランドの教育への姿勢がとても感じられた訪問でした。

帰国後

コロナウィルスが流行し、多くの留学生が自国へ帰国しなくてはならなくなったので、プレゼンテーションは、web 上に資料と音声をアップする形に変更されました。同じチームの留学生と連絡を取って、それぞれの担当部分の資料と録音した音声を繋ぎ合わせて提出しました。

・ Research in Early Language

帰国前

この講義は、初等教育で行われる外国語教育に関する講義でした。具体的には、それぞれの留学生が自国の外国語教育について、小学校の子供を持つ親にインタビューをして、その内容を一つのレポートとしてまとめるというものでした。この講義を受けている学生のほとんどが大学院生で、初めは「取る講義を間違えた…」と思いましたが、この講義を開講している教授がとても優しく、私が理解しているか一つ一つ確認して講義を勧めてくれたため、何とかついていく事ができました。参加している大学院生の出身は、韓国、中国、ベトナム、カナダ、トルコ、ロシアなど様々だったので、各国の外国語教育の違いを比較する事ができて面白かったです。

帰国後

帰国後は、月に何回かオンラインでのミーティングが行われました。教授も自宅からミーティングに参加していました。大学院の学生はコロナウィルスが流行しても帰国せず、フィンランドにとどまった人が多かったので、私以外のほとんどの受講生もフィンランドの自宅から参加していました。オンラインで海外にいる人たちとミーティングをするという事が初めてだったので、とても緊張しました。また、何千キロメートルと離れた地にいる人たちとこんなにスムーズに会話ができる事に感動したのを覚えています。

2. 生活の状況(帰国前)

勉学以外の面では、2月から3月中旬までは、コロナウィルスの影響は全くと言っていいほど無く、普通に生活していました。各国でじわじわと感染者が増えているという話は耳にしましたが、感覚として、「日本でコロナウィルス流行ってきているみたいだけど皆大丈夫かな」という感じで、まさか3月中旬にヨーロッパの国々が次々に国境閉鎖をするなんて、思ってもみませんでした。逆に言えば、それほど状況が急が変わったという事です。参加予定だったイベントや友達との遊ぶ約束も全てキャンセルされ、大学で他国の留学生と会うとまず発される言葉は、「いつ帰国するの?」「家族は大丈夫?」という内容ばかりでした。

そんなこんなで、緊急帰国する事にはなりましたが、楽しい思い出もたくさん作る事が出来

ました。一つ目は、Jomoni(ヨモニ)という地域の学生団体のようなところで、日本食ワークショップを開催した事です。私は料理初心者なので、料理が得意な日本人の友人と協力して行いました。予算やベジタリアンの参加者も楽しめるものなど、様々な条件を考慮した上で決定したメニューが、おにぎりとコロッケでした。食材を集める事が思っていたより苦労しました。まず、日本のようにもちもちした美味しいお米が簡単に手に入りませんでした。フィンランドにも売っていましたが、非常に高価でした。そのため、日本のお米に似た食感のお米と日本の高価なお米を混ぜて炊きました。また、ベジタリアンの参加者も食べられるようにおにぎりの具材を工夫したり、コロッケを2種類作ったりしたのも大変でした。このような苦労の甲斐あって、イベントでは多くの留学生や地域の方々が参加し、楽しんでもらうことが出来ました。海外の人の口に合うか分からず、チャレンジメニューとして作った昆布の佃煮が以外と好評だったり、おにぎりを握る時に手がベタベタするので、手にバターを塗ってからおにぎりを握る参加者がいたり、面白い発見がたくさんありました。

二つ目は、プチバーベキューをした事です。大学から自転車で20分ほど走ったところにある公園で行い、スーパーで買ったパンとソーセージを焼いて食べました。とても寒い中で食べる熱々のパンとソーセージは本当に美味しかったです。また、太陽の光を反射して輝く凍った湖や、時間とともに表情を変える空を眺めながら、ゆっくりと過ごす時間が、フィンランドならではの、本当に貴重な時間でした。ただ、本当に寒かったので、最後は我慢できずに「寒いから帰ろう!」と早めに切り上げました笑。



3. 最後に

フィンランドでの留学生活は、思い描いていたものと全く違う終わり方をしてしまいました。コロナがあったからこそ感じられた事はたくさんありました。その中でも、緊急事態における情報収集の難しさを痛感しました。コロナが大流行し世界中がパニックに陥っている中

で、様々な情報が飛び交いました。「明日には日本行きの飛行機の便が無くなる」というような、今考えれば絶対にありえない情報も留学生間で流れ、どの情報を元に行動を起こせば良いのか分からず、混乱しました。その中で、留学生支援課の方や学部長やSULAの方が、深夜にも関わらず連絡を取ってくださり、情報を提供して下さったおかげで、帰国を決意し無事に日本に帰ることが出来ました。本当に感謝しています。情報が簡単に手に入りやすい現代だからこそ、緊急事態時に、情報をどのように取捨選択していくか、今後考えていかななくてはならないと思いました。

また、現地とオンラインでの留学の両方を経験した上で改めて感じたのは、新しい場所で新しい人と出会う留学という経験はオンラインでは代えられないという事です。帰国後、オンライン上で学習を続けることは出来ましたが、毎日他の国の留学生と拙い英語で頭をフル回転させながら会話をした経験は、オンラインでは得ることが出来ませんでした。コロナウィルスの収束がいつになるかはまだ分からない状況で、「with コロナ」という言葉が出てくるほどコロナウィルスに影響を受ける日々が続きますが、はやく海外へ自由に行き来が出来るようになる事を祈っています。そして、コロナウィルスが収束したら、やり残した事がたくさんあるので、もう一度フィンランドに行きたいと思います。